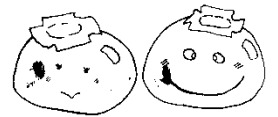


手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

生ごみは宝 大盛況! ダンボールコンポスト講習会



コンポストに取り組みました。「堆肥化に失敗はありません。どんな状態でも最終的には土にかえります」と講師の力強い言葉に皆納得。恐る恐るではなく、大胆に生ごみを投入してもよいこと。ダンボール箱を長持ちさせる工夫。虫の防除、駆除方法、堆肥化のメカニズム、出来上がったたい肥の利用法など基本的なノウハウを学びました。

最近ではごみ減量の視点だけではなく、分解微生物との楽しいお付き合いも魅力的と感じてきた人も増えているようです。まちネット寄居ではこれからも自分たちにできるエコライフの普及活動に楽しく取り組んでいきます。

7月28日、10月20日2回の講習会を開催。延べ44名の参加者。今年度は、町広報、埼北よみうりに情報掲載、ほか中央公民館、図書館等へチラシを置いてもらうなど広報活動に力を入れたことが反響へ繋がったようです。

「生ごみは宝、ダンボール箱を使ったコンポストで、簡単に良質なたい肥ができます」と呼び掛け、2008年よりまちネット寄居では、毎年講習会を開催してきました。私たちの暮らしの足元からできるごみ減量の第1歩として、簡単に誰でもできるダンボールコンポストは、ごみ減量と良質堆肥の一石二鳥。この間出前講座、交流会といった形で普及活動を続けてきま

した。今年度は、昨年に引き続き循環生活研究所(ダンボールコンポスト実践活動40年のNPO法人)のダンボールコンポスト・アドバイザーである花里さんに講習をしていただきました。今年度の特徴は、町広報を見てという男性の参加者が多かったこと。参加者の7割もの方が、実際にダンボール



熱心に聞き入る参加者たち

第7回今しか聞けない戦争体験のお話

平和を守るために語り継ぐ



「広島での被爆体験を語る 原爆投下直後、看護にあたった私が知った世界」

講師 服部 道子さん

(埼玉県原爆被害者協議会理事)

去る8月26日。爆心地から3.5kmで原爆にあいながら看護師として働いた服部道子さんをお迎えして、実際に見て感じた方にしか出来ないお話を伺いました。

参加者した10～80代までの20名の方々からは「貴重なお話をありがとうございました」「自分の周囲の人にも伝えます」「大変なご経験をされておつらいのに、力強くお話し下さりありがとうございました」「原爆体験をしていないので、後世にどのように伝えて行けばよいのかわからない」などの感想が寄せられました。

16歳の少女が体験した真実。今まで、いくらかは知ったつもりになっていた原爆の恐ろしさ、被爆した方の苦しみが、「浅かった」ことに気付かされた講演でした。

「大やけどの女性がふらふらと歩いてきた。『お姉ちゃん、助けて下さい』赤ちゃんを背負っている。背中の赤ちゃんを受け取ろうとして、息をのみ、思わず口にしてしまった。『あ・・・首が・・・ない』その瞬間、母親は『ギャーッ』と言葉にならない悲鳴をあげて倒れ、その場で息絶えた。

服部さんは自分の一言が母親の命を奪ってしまったのではないか・・・取り返しの付かない事をしてしまったのではないか・・・と深く後悔をしたと話されました。

「皮膚が垂れ下がるほど酷いやけどを負った人。眼球に沢山のガラ



お話される服部さん

スが刺さった人。折れた電信柱が体に刺さった人。人手も薬も足りず治療することも出来ないまま、ムシロに寝かされた人々」服部さんは3日3晩、食事もノドを通らない状態で、不眠不休で看護にあたりました。

焼けただけ、化のうした皮膚に這い回るウジ虫とか、人が焼けた後の匂いとか、とても説明出来ないものもあった」「今は平和なのに、昔話で人に媚びるなどいわれたこともあった。でも、黙るわけにはいかない。犠牲になって先に亡くなった人達に『しゃべって』と言われている気がして仕方がない」

講演後、「平和を守っていくのは大変、難しいことですが、一緒にがんばっていきましょう」と励ましの言葉を頂きました。



10代から80代までの参加者



「彩の国資源循環工場」松葉による大気調査報告

◆8/19 松葉採取

松葉による大気調査実行委員会が、資金集めや周知など準備を進めてきた調査も、いよいよ松葉採取当日を迎えました。15名の参加者が、敷地内と敷地外に分かれ、各数カ所の松から2年葉を採取。日陰や下草・ツル植物などの影響で、若干元氣不足の松も見受けられましたが、必要量(敷地内・外、各100g)を採取でき、分析機関に送りました。この日は、風もあり、昨年と比べると、具合の悪くなる程度は、軽かったような気がします。化学物質過敏症でない私でも、毎回多少の症状は出ます。体への影響を考え、今回は、子どもさんは参加対象とはしませんでした。

◆分析結果

10月中旬、分析結果の暫定版が届き、全般的に、これまでの数値より悪化していることが判明しました。特に、敷地内のダイオキシソ類は、日本の環境基準0.6pg-TEQ/m³の2倍にあたる1.2pg-TEQ/m³(大気中濃度換算値)。重金属類の水銀は、昨年度の敷地内が0.16μg/gと非常に高かったのが注目していましたが、今年はわずかに減り、0.12μg/gでした。しかし、全国ワースト1位クラスの高い値に変わりありません。ニッケルの敷地内の値は、昨年の2倍(1.91μg/g)、敷地外に至っては、昨年の約9倍(5.68μg/g)であり、敷地外の原因発生源の可能性も危惧されます。今後、分析結果確定版を待って、データを別途ご報告する予定です。

行政による調査が、年数回の調査時点の値に対し、松葉調査は、

葉の気孔から大気物質をおおよそ1年間取り込んだ値をもとに、その汚染度を分析するという点で、より実態を掴める方法と言えます。市民が独自にデータを持つメリットは言うまでもありませんが、それを継続して得ていくというのは、費用面でも、なかなか大変なことです。今回の調査も、カンパ金(約49万円)で賄いました。その多くは、長年、環境問題に取り組んできた生活クラブの組合員からのカンパ金でしたが、まちネット寄居で設置したカンパ箱でも11,396円の協力が得られました。ご協力くださった、皆様、事業所様、ありがとうございます。なお、ダイオキシソと重金属類の分析費用は、2検体(敷地内・外)で、約33万円でした。実行委員会では、年明けに、生活クラブと共催で報告会を予定しており、最終的な残金は、次回以降の調査費用に繰り越されます。

松葉による大気調査実行委員会：生活クラブ寄居・小川支部・彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば・ワーカーズコレクティブキッチンそら豆・まちネットワークよりい



寄居町デマンドタクシー 試運行開始

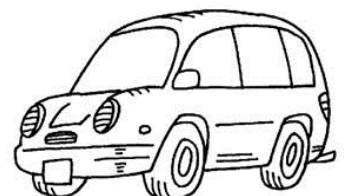
11月からテスト運行される「寄居町デマンドタクシー(仮称)」の町民説明会(10/1用土)に出席した。利用日の1週間前～前日までに予約した時間に、自宅と共通乗降場(町内のみ)に限り、乗り下り可能な乗り合いタクシー。片道300円。利用

対象者は、全町民で、必ず事前登録が必要(郵送、FAX、e-mail、役場企画課窓口)。利用時間は、午前8時以降の乗車から、午後5時下車まで。ちなみに、予約の際、目的地までの所要時間が分からなくても、「〇時〇分までに着きたい」と言えば、予約担当者がその場で調べ、迎車の時間を提示してくれる。予約受付業務は、寄居町社会福祉協議会に委託。予約状況によっては、最大4人の乗り合いとなり、その分、余分に時間がかかるが、予約の際にその旨説明される。介助者は、町外の人(事前登録不要)の同乗でも300円でOK。

当初は、委託車3台、5～6名の運転手がローテーションで対応予定。町では、運転手の研修をして、サービスの質の確保も心がけ、今後、共通乗降場の拡大や1時間前の予約等も検討していくという。名称の「デマンド」については、もっと親しみの持てるネーミングに変更される見込みという話もあった。

まちネット寄居では、移送サービスの必要性を事あるごとに訴えてきたが、ようやく、寄居町でもこのような取り組みが始まった。今後の充実に期待するとともに、利用者側の声を、どんどん伝えていかなければと感じている。たとえば、未就学児の無料対象は、大人1人につき1児だけとなっているが、子育て支援の観点から、すぐにも改善して欲しい部分である。意見等は、役場企画課が窓口。町では、利用予定がなくても、いざという時のために登録を、と呼びかけている。なお、「広報よりい10月号」に申込み方法・共通乗降場などの利用案内が掲載されている。

Y.S



「自然エネルギー推進の町宣言」昨年提出の要望書が決議

「自然エネルギー推進の町宣言」に関する決議(要旨)

町が、恵まれた自然と歴史を大切に、自然エネルギーを積極的に活用した「自然エネルギー先進都市寄居」の実現を目指すために、今後の町の基本的姿勢を示すべき「自然エネルギー推進の町宣言」を行い、町としての強い決意を町民の皆様を示すとともに、全国に向けて発信されるよう次の事項を付して強く求めることを決議しました。

記

1. 太陽光発電システムを中心としたエネルギーの地産地消実現に向けての取り組み
2. 住民へ利益還元ができる遊休地等を利用した自然エネルギー推進事業への取り組み
3. 埼玉県の太陽光発電システム価格低減事業の指定自治体へ申請
4. 住宅用太陽光発電システム設置費補助金制度の補助対象等の拡大及び相談窓口を開設
5. 温水器の普及促進及び風力・水力等を利用した省エネ・創エネの調査研究
6. 山林(間伐材等)を活用した省エネ・創エネの調査研究
7. その他自然エネルギー活用事業の取り組み

2012年寄居議会だよりNo.65より

2011年、8月末に提出したまちネット他数団体の要望書が議員提案となり、6月町議会で決議されました。決議文は多岐にわたる内容となり、力強い文面となりました。今後、全国に向けて実効性のある町の基本姿勢となるよう、私たちも積極的に参画していきましょう。

節電エコライフしよう

太陽から自然の発電開始

手づくり発電の光です

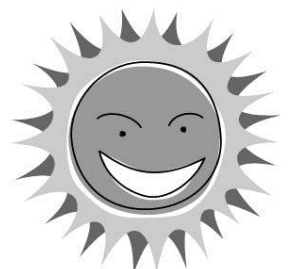
このほど、荷分け置き場の外灯が、太陽光発電による灯りとなりました。太陽光から発電・送電しています。「まんてん発電所」と名付けました。お隣の皆農塾さん「メーメー発電所」と合わせ、今市地区で2基の発電所が動いています。

太陽光を採光したパネルから得た約100ワット分の太陽光エネルギーは、整体院の軒下に設置した専用バッテリーに充電され、荷分け場の天井のLED電灯を灯しています。

太陽の光をエネルギーに換える小さな一歩、自分たちでできる原発に頼らない一歩、これからの暮らし、平和な光、と思っています。

バッテリー充電容量の心配はありませんが、柱に設置しているスイッチのオン・オフで電灯の消し忘れがないようご注意ください。

8月も終わりの猛暑の日、ネット会員の取り組みです。生活クラブ生協の荷分け場所に設置され、こんなお知らせが掲示されました。1枚のパネルを設置(約54cm×120cm)。



ネット会員募集中
いつでもどうぞ!

お任せからは解決できないことだらけ。あなたの不安、困っていることなど話しませんか。

問合せ・・・篠原(584-5344)



編集後記

2012年の夏も長く暑かった。じりじりと照りつける太陽が恨めしくもあったが、この自然の恵みから電気エネルギーを得た時は感動だった。ダンボールコンポスト、太陽光発電など生活者レベルでできることの広がりを呼び掛けたい。町9月議会の傍聴に足を運べなかった。其々いろいろな理由を抱えてのことだが、最低限わかでも傍聴をとっていたのだが残念だ。

喉元を過ぎると暑さを忘れることの得意な日本人は、あの未曾有の震災から1年半が経ち、あの時の怒りがどんどん希薄になっている。あの「原発神話」の崩壊を私たちは決して忘れてはいけない。今、日本の政治はどこへ向かおうとしているのか。 H.O